

JTAの健康経営目標と取り組み状況

JTAでは、健康保険組合から、毎年提供される

「Wellnessレポート」の結果と「JAL Wellness2025」で設定した重点施策を中心に、自社の健康課題を以下に定め、健康推進活動に取り組んでいます。



健康課題	指標	対象者	(2025年) 最終目標	2021年 現在値	2020年	2019年
生活習慣病	定期健康診断受診率	社員	100%	100%	100%	100%
	適正体重維持率(BMI18.5~24.9)	社員	80%以上	65.2%	63.8%	64.9%
	特定保健指導実施率	社員	65%以上	-	26.9%	14.9%
がん	胃がん検診受診率	社員(35歳以上)	100%	55.8%	57.2%	55.2%
	大腸がん検診受診率	社員(35歳以上)	100%	72.3%	70.2%	64.9%
メンタルヘルス	ストレスチェック受検率	社員	100%	94.1%	89.3%	85.5%
たばこ対策	喫煙率	男性社員	20%以下	21.7%	21.7%	23.4%
		女性社員	3%以下	0.7%	0.7%	1.6%
女性の健康	乳がん検診受診率	女性社員(18歳以上)	70%以上	51.1%	47.4%	36.6%
	子宮がん検診受診率	女性社員(18歳以上)	70%以上	52.0%	47.7%	35.3%
	女性の痩せ	女性社員(34歳以下)	20%以下	32.6%	34.5%	42.6%

2021年の取り組み

- ・ 全社員を対象に、定期健診、婦人科検診の受診勧奨メール発信
- ・ 産業保健スタッフから再検査・要精密検査・要治療者への医療機関受診案内/精密検査受診率11.5%
- ・ 産業保健スタッフによる「こころとからだの健康相談」窓口の設置、周知
- ・ 全社員に対して、睡眠や食生活、飲酒、メンタルヘルスなど健康習慣に関連する行動変容アンケートの実施：回答率72.6%
- ・ 各職場で、ラジオ体操の実施を継続
- ・ 就業時間内完全禁煙の実施(2018年5月より)
- ・ JALグループ禁煙サポートプログラム「WEB禁煙外来」への参加啓発
- ・ 産業保健スタッフによる社内メール：たばこ対策「タバコは猫を被っている」を配信
- ・ 産業保健スタッフによる「メンタルヘルス」をテーマとしたセミナーを開催(2回)
- ・ ストレスチェック：高ストレス者の割合は3.2%であり、高ストレス者全員に産業保健スタッフによる補足面談を実施した
- ・ 外部栄養士による「食生活」をテーマとした体験型セミナーを開催(1回)
- ・ 婦人科検診(乳がん・子宮がん)を健康保険組合の補助を活用し、自己負担なしで実施
- ・ 乳がん検診率向上のための「ピンクリボン沖縄」の啓発活動に賛同し、10月1日～31日の期間中、

ピンクリボンバッジ及び肩章を対象社員が着用し、「ピンクリボン運動」を実施

- ・健康経営のノウハウ提供等を通じて、取引先の健康経営の実践を支援している(2021年1件)
- ・健康経営シンポジウムへ参画し、健康経営の取り組みについて知識普及の拡大に貢献している。

社員の健康に大事なものは「楽しい目標」 JTA、興南施設、カゴメが報告 琉球新報で健康経営シンポ

2021年12月11日 13:46

沖縄経済ニュース 健康 JTA カゴメ 琉球新報ホール

B1 0

ツイート

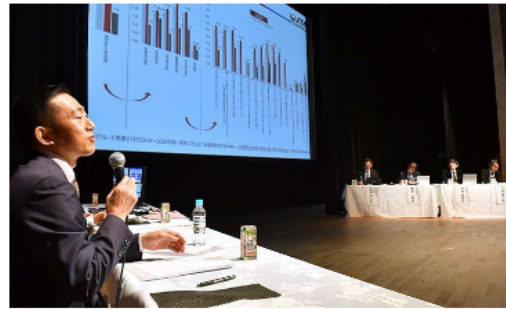
共有する

琉球新報社は10日、第2回「健康経営シンポジウム」（後援・沖縄総合事務局、県）を那覇市泉崎の琉球新報ホールで開催した。日本トランスオーシャン航空（JTA、那覇市）と興南施設管理（浦添市）、カゴメ（愛知県）の3社が社員の健康増進について取り組み事例を紹介し、楽しい目標の設定や周囲の複数人で一緒に取り組むことが健康経営を継続する秘訣（ひけつ）になると提言した。

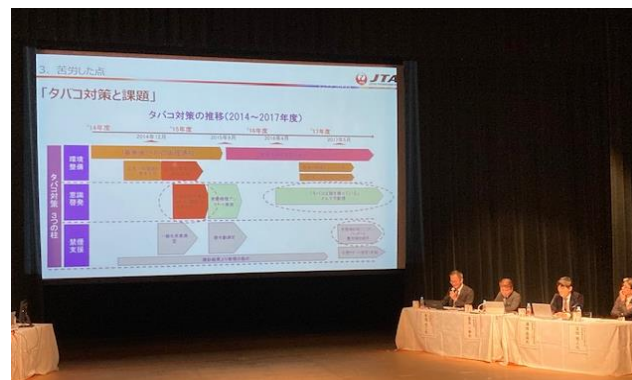
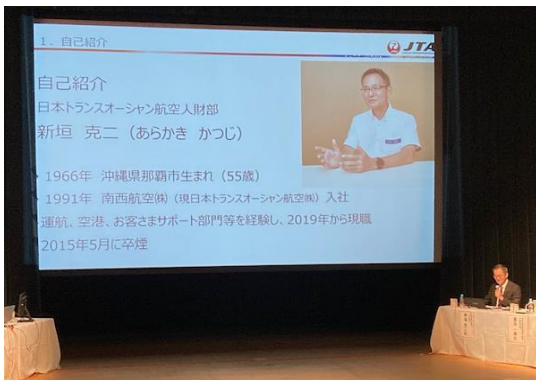
JTA人財部の新垣克二部長は、2014年ごろに始まった社内の禁煙対策について報告。「喫煙所を減らすほか、受動喫煙防止対策セミナーの開催などにも力を入れている」と紹介した。

興南施設管理は、2020年から個人の歩数ランキングや健康増進ポイントシステムを導入したほか、定期的に健康セミナーも開催しているという。屋良一寿常務は「社長が意識を変えれば、社員も変わる。今後も社員の目線で健康増進法の構築を楽しく継続していきたい」と述べた。

シンポジウムには約50人が来場し、報告を熱心に聞いた。カゴメ健康事業部健康経営アドバイザーの湯地高廣さんは「従業員が喜ぶ取り組みかを常に考えないといけない。健康になってその先を目指すことも重要だ」と指摘した。



従業員の健康管理などを議論する登壇者ら＝10日、那覇市泉崎の琉球新報ホール



(健康経営シンポジウムでの様子)

健康習慣	指標	対象者	(2025年) 最終目標	2021年 現在値	2020年	2019年
ライフスタイル	運動習慣 (行動期・維持期を合算)	社員	80.0%	70.0%	69.0%	59.0%
	休養が取れる睡眠 (行動期・維持期を合算)	社員	95.0%	83.0%	84.0%	83.0%
	朝食を摂る習慣 (週に4日以上)	社員	85.0%	73.0%	73.0%	78.0%
	適度な飲酒習慣 (行動期・維持期を合算)	社員	95.0%	88.0%	88.0%	86.0%

健康指標関連	測定値	対象者	(2025年) 最終目標	2021年 現在値	2020年	2019年
アブセンティーズム	傷病による平均欠勤日数	社員	2.3	3.7	2.6	3.3
プレゼンティーズム	東京大学1問方式による 生産性低下率	社員	-10%	19%	-16%	-18%
ワークエンゲージメント	新職業性ストレスチェックの設問 (2項目) から把握	社員	3.4	3.1	3.1	3.2

2021年の結果及び評価

- ・定期健診の受診率100%を維持できたが、重点指標の適正体重維持率について、前年比1.1%の悪化という数値であり、課題が残る結果となっています。
- ・精密検査受診率も11.5%と低い状況です。受診後に報告をしていない社員も含めて、精密検査の重要性について社員の意識醸成や、積極的な受診勧奨及び受診管理などができる体制の整備等も今後の優先順位の高い課題だと考えています。
- ・定保健指導実施率が高い値とはいえ、次回以降、特定保健指導を活用し、肥満対策にも積極的に取り組んでいきます。
- ・喫煙率については、前年との変化が見られませんでした。屋内禁煙とはなり、環境整備を進めることはできましたが、電子タバコによる喫煙者などが確認できています。その点について、詳細を明確にし、禁煙支援を強化していきます。